

令和2年度（平成31年・令和元年度対象）

南丹市教育委員会  
点検・評価報告書

令和2年9月

南丹市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「指導の重点」の推進施策について事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会では、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに子どもたちの「生きる力」を育む教育の推進に努力してまいります。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（令和2年9月現在）

職名	氏名
教育長	木村 義二
教育長職務代理者	武田 義史
委員	高屋 毅史
委員	城戸 貴子
委員	渕上 真奈美

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催いたしました。

### ■令和元年度開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・4回

## 2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、同法第25条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、令和元年度は合計55件について審議いたしました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・14件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・26件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・15件

## 3 教育委員会活動

- ・全国市町村教育委員研修等 各種研修／令和元年11月5～6日 他

## 4 教育行政事務の取り組み状況に対する点検・評価

南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成25年南丹市教育委員会告示第9号）に基づき、下記の要点をもって点検・評価を実施しました。また、教育に関し専門的知見を有する点検・評価アドバイザーからは、事前送付した事務局作成による調書・資料により、8月19日（水）に点検・評価に係る意見聴取会議を開催し、様々な意見や助言をいただきました。意見・助言をいただいた点検・評価アドバイザーは次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属
山口 満	筑波大学 名誉教授 びわこ成蹊スポーツ大学 名誉教授
原 清治	佛教大学 副学長 教育学部教授
内山 淳子	佛教大学 特任准教授

(1) 点検・評価の要点並びに構成

① 評価対象

点検・評価の対象は、「平成31年度南丹市教育の指針」に基づき、学校教育及び社会教育に関する指導の指針に属する推進施策としています。

なお、この指針内の重点実践項目の内、平成31年度教育行政経営方針の重点事項に属する内の主な事務事業（24項目）に対して、点検・評価アドバイザーからの意見を聴取しております。

② 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

③ 「南丹市総合振興計画実施計画」及び「南丹市教育振興基本計画」上の位置づけ

計画で定められた施策の方針等に基づいて実施する事業に関する教育委員会としての点検・評価事務として位置づけています。

④ 内部評価と総合評価 ※評価判断の基準は下記に記載のとおり

(内部評価) 対象評価項目事務事業を所轄する担当課による評価です。

(総合評価) 内部評価に加え、点検・評価アドバイザーの参照意見を踏まえた教育委員会としての評価です。

※評価判断基準	
A	計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B	課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C	課題を残し目標も十分達成できなかった
D	検討段階で具体の成果はなかった

⑤ 点検・評価票記載内容等に係る改善点について

本年度実施したアドバイザーからの意見聴取を踏まえ、次年度からの運営に資することとします。

◆令和2年度 南丹市教育委員会主要事務事業一覧&「点検・評価」項目（平成31年・令和元年度事務事業）◆

平成31年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	点検・評価 アドバイザーによる 意見聴取	主要事務事業名「点検・評価」項目
①重点実践項目	②実践の方向性				
1. 豊かな人間性の育成	「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する	学校教育課	1	○	(1) 主体的・対話的深い学びの推進事業
		教育総務課	2	○	(2) 学校現場における業務改善加速事業
	確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る	学校教育課	3	○	(3) 情報教育研究事業（ICT教育・プログラミング教育）
	生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる	社会教育課	4	○	(4) 講座開設事業（公民館事業・文化祭）
	0歳から読書で学べる環境を構築する	社会教育課	5	○	(5) 講座開設事業（図書館）
2. 安心して学べる環境の構築	人権が尊重されるまちづくりの推進	学校教育課	6	○	(1) いじめ防止対策推進事業
		社会教育課	7	○	(2) 人権教育事業（人権教育講座）
	子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える	社会教育課	8	○	(3) 家庭教育支援事業
	学校や生涯学習施設の安全対策を図る	教育総務課	9	○	(4) 長寿化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業
		社会教育課	10	○	(5) 社会教育施設機能集約（八木市民センター）
	生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える	社会教育課	11	○	(6) 体育振興事業（スポーツ推進計画・アクションプラン）
3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える	社会教育課	12	○	(1) 講座開設事業（地域学芸員養成講座ほか）
	地域の自然の中で体を使った体験や科学を学べる環境を整える	社会教育課	13	○	(2) 体験講座開設事業（博物館、郷土資料館）
	市の文化財の魅力の創出と発信を行う	社会教育課	14	○	(3) 重要文化財保存管理事業、重要伝統的建造物群保存地区保存修理補助事業
	さまざまな学習機会を創出する	学校教育課	15	○	(4) 食育推進事業
4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	文化芸術の魅力・情報発信を充実させる	社会教育課	16	○	(1) 園部藩立藩400年事業（南丹テレビ歴史講座・子ども体験講座等）
	文化芸術を楽しめる環境構築に努める	社会教育課	17	○	(2) 展示会事業（江戸時代の暮らし展、園部藩のあゆみ展）
5. ダイバーシティ教育の推進	外国語教育や多様な文化の学習を充実させる	学校教育課	18	○	(1) 外国語教育推進事業（英語検定補助）
	ユニバーサルデザイン環境の構築に努める	学校教育課	19	○	(2) 適応指導教室の開設
	バリアフリー意識の啓発・浸透に努める	学校教育課	20	○	(3) 心のバリアフリー推進事業
6. 自己肯定感・有用感の育成	異年齢で学びや交流の場を広げる	学校教育課	21	○	(1) 校種間連携推進事業
	地域における子どもの居場所を充実させる	社会教育課	22	○	(2) 子どものための地域連携事業
	子どもが地域社会で活躍できる場を創出する	社会教育課	23	○	(3) 子どものための地域連携事業
	地域人材が学校で活躍できる場を創出する	学校教育課	24	○	(4) 地域学校協働活動の推進、コミュニティスクール推進事業

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	1	令和元年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 主体的・対話的で深い学びの推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する			
事業目的	新学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進する実践研究等に取り組み、その成果を共有・展開等することで、これからの時代を生きる子供たちに求められる資質・能力を着実に育むことを目指す。				
事業内容	園部中学校において、国の委託事業「主体的・対話的で深い学びの推進事業」を活用し、指導方法・指導体制の工夫や教材の開発、改善や普及のための実践研修に取り組んだ。			達成指標	
	校内教育部会の活性化（年間13回開催） 公開授業の実施 外部講師の講演会の実施			学校評価において、「学校は授業改善を行い、わかりやすい授業の工夫に努めている」の項目を前年度と比較してポイントを挙げる	
				令和元年度予算額	
成果	研究指定校を受けて昨年度から引きつづき取り組んできたことにより、 1. 生徒の学びに向かう姿勢づくり 2. 教員の指導力の向上 3. 幼保小中連携による深い学びのシステムをより一層進める。 上記の課題について、教員の指導力に深化がみられ、その結果「生徒の学びに向かう姿勢」が確立されつつある点、また、中学校だけでなく小学校・就学前教育との連携と学びの連続性の重要性について認識できた。			達成度	
				平成30年度 56ポイント 令和元年度 65ポイント	
				令和元年度決算額	
			1,107,000円		
課題	今後も引き続き、教員指導力の深化と、校種間連携を強化・継続に取り組む。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	今年度の達成指標及び達成度はこれでよい。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			
総合評価	A				

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	2	令和元年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 学校現場における業務改善加速事業	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する		
事業目的	次代の働きやすい学校職場環境の実現 ～誰もが、やりがい感と充実感をもって意欲的に教育に取り組める職場環境をめざして～			
事業内容	平成28年度実勤務時間実態調査における本市教職員の実勤務時間の実態を踏まえ、全市で取り組む学校業務改善方策の実施と効果検証を通して、その縮減を図る。併せて、共同学校事務室の設置等より、各学校間の交流を通して情報を共有し教育の質をより高め、誰にとっても働きやすい学校職場環境モデルを構築する。		達成指標	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態の改善</li> <li>・意識の改善</li> <li>・学校事務を共同化し情報を共有することにより業務の効率化を図る。</li> </ul>	
			令和元年度予算額	
		1,786,000円		
成果	学校業務の省力化として、ICT活用によるペーパーレス化で用紙代を38万節約できた学校や、効率化では会議を精選し、終了時刻を予め明示することやPCの活用が見られた。業務の集約では、校務分掌を見直し組織をスリム化を図ること等を実施した。 令和2年3月「南丹市立小学校及び中学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則」を制定した。併せて「南丹市小中学校の教育職員の勤務時間の上限に関する指針」を策定し、業務改善に対する姿勢や意識に高まりがみられた。 また、共同学校事務室の設置にむけて京都府内においても先進的に事業実施ができた。		達成度	
			実勤務調査では、正規の時間外勤務の状況で25時間以上（過労死相当ライン超え）勤務の教員の割合が業務改善取組前の3年前と比較して小学校で6ポイント、中学校で5ポイント減少した。	
			令和元年度決算額	
		1,774,800円		
課題	業務改善に対する姿勢や意識に高まり業務の改善がみられるが、改善意識の高まりを感じる割合が約半数、自己研鑽や余暇を楽しむ時間が増えたと感じる割合が3割程度にとどまっており、実勤務時間の大幅な縮減には繋がっていない。引き続き意識改革をすすめる方策が必要であると考え。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	内部評価どおり事業の成果があがり、今後も更に事業が広がり、充実されることを期待する。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	3	令和元年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 情報教育研究事業 (ICT教育・プログラミング教育)		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る		
事業目的	変化する社会を生き抜くためには、基礎的・基本的な知識を身に付けたうえで、効率よく学び、学びを表現するツールとしてICTを十分活用する。 また、プログラミング教育を通して論理的思考力を育成するとともに社会の基盤となるICTを身近なものにとらえ、考える力を養う。			
事業内容	南丹市立小中学校から1名の委員を選出し、「南丹市ICT教育研究委員会」を立ち上げ、下記の達成目標を掲げ、年間4回の研究実践を行った。  1. 情報活用能力の向上 2. 情報モラル教育の推進 3. プログラミング教育の推進 4. ICT教育の推進		達成指標	
			年間3回の「南丹市ICT教育研究委員会」を開催する。	
			令和元年度予算額	
		0円		
成果	新学習指導要領により令和元年度より実施となる小学校でのプログラミング教育について、教科内容として学習する「5年算数科」「6年理科」の内容について、教材の準備を踏まえ、全小学校で一致して進めることができた。 各校における「ICT教育実践、プログラミング教育の現状」の交流や、昨年度まで京都府の「先導的実践研究加配制度」を受けて実践を重ねてきた殿田小学校の公開授業研究会への参加、外部講師を招いての研修会等により具体的な実践を進めることができた。		達成度	
			公開授業のほか、外部講師を招いての委員会を4回開催することができた。	
			令和元年度決算額	
		0円		
課題	「主体的・対話的で深い学び」を進める授業改善とすべての教員のICT機器の利活用を目指したい。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	今年度はこれでよいが、来年度については、コロナの中でどのように情報化を進めるかを指標にすべきではないか。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			



## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	4	令和元年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 講座開設事業（公民館事業・文化祭）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる		
事業目的	実生活に即する教育・学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の交流と、教養の向上・健康増進等を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進・生涯学習の推進を目指す。			
事業内容	各社会教育施設を拠点として地域性を活かしたソフト事業を、次の通り実施。（※は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） ・さくら楽習館 全5講座（※うち1回中止）講座、専門学部5学部 ・園部公民館休館コンサート ・八木公民館閉館コンサート（※）、閉館記念冊子の発行 ・スポーツと文化のコラボレーション事業（トライアスロン大会プレイベント出演、当日写真展示、歴史ウォーキング） ・春休みアニメ上映（※） ・各町文化祭 ・なんたん音楽フェスティバル ・その他趣味、教養関係(将棋、手芸、英会話、将棋、パソコン)		達成指標	
			魅力ある事業を企画し、参加者及び施設利用者を増やす。	
成果	高齢者生涯学習講座「さくら楽習館」を開講し、市内社会教育施設を利用しながら全市に学び合いの場を広めることができた。受講形態を年間通して受講する教養学部と、サークル活動を中心とした専門学部に編成した。 また、各施設の地域性を活かした事業が実施でき、講座や文化祭等のソフト事業を通して住民の交流や文化的教養の向上等を図ることができた。（年間述べ参加者数 3,603人）		令和元年度予算額	
			2,154,000円	
課題	内容の充実を図り、様々な年代の方に参加してもらえるような魅力ある講座を企画していくとともに、参加者によるサークル化への移行や、新型コロナウイルス感染症予防のため、新たな開催方法の模索が必要。		達成度	
			さくら楽習館の登録者は109人（教養学部43人、専門学部56人）となった（30年度：112人）	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	令和元年度社会教育事業報告	
意見内容		意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容		さくら楽習館の5回目講座がコロナで中止となり、来館者が少なかったためB評価であるが、きめ細かい事業をされている。公民館閉館に当たり記念誌を作ったことは手厚いことだと思う。		
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	5	令和元年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(5) 講座開設事業（図書館）		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	オーサービジット事業を主体に様々なアプローチで講座事業を実施することにより、読書意欲の向上を図り、生涯学習の柱の一つである読書活動の推進に寄与する。			
事業内容	・オーサービジット事業 ①講師：はせがわ さとみ（絵本作家） 12月7日 一般市民対象 おはなしとワークショップ「おはなしのたねをみつけよう」 作品の読み聞かせの後、その物語に登場する動物をモチーフにオーナメントを作成した。好きな動物をあげた後、いくつかの動物から作品を作る。関連した絵本の読み聞かせ ②大人の読書会5周年記念企画として3月5日（木）に早川茉莉さんのトークライブを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。 （その他） ・博物館夏季企画展～江戸時代のくらし～にあわせお楽しみ会を開催。 ・放課後児童クラブに出向いて読み聞かせを実施。		達成指標	
			様々な企画を各館・室で行うことにより、本に興味を持ってもらい、来館者数、貸出冊数を増やす。	
成果	①子ども達の想像力を掻き立てるワークショップと子ども達を引きつける魅力ある読み聞かせに、「楽しい」を原点とする読書活動に繋がった。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止のためトークライブ中止。 （その他）博物館と共催でお楽しみ会を開催し、江戸時代の昔話の読み聞かせやからくり人形の工作を楽しみ、江戸時代のくらしや文化について楽しく学ぶ機会とすることができた。 放課後児童クラブでの読み聞かせや年間を通したおはなし会、工作会の実施により図書館に足を運んでもらう機会を増やし、本やおはなしの楽しさを知ってもらう機会を作ることができた。 令和元年度より日吉図書室で「大人の工作会」を企画し、3回実施した。次回の企画を楽しみにする声も多数聞かれた。美山図書室でも「おとなの読書会」を実施しており、成人向けに、図書館に足を運んでもらう機会を増やす取り組みができた。 3月以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事を中止したため、実施回数が少なくなった。		達成度	
			著者とのワークショップや読み聞かせにより楽しい時間を共有することで作品への親しみを持つことが出来た。工夫を凝らした催しを定期的に行う事で来館に繋がった。 年間来館者数：57,200人（昨年比：-2.9%）年間貸出冊数（個人）：109,129冊（昨年比：+2.1%）	
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントを中止しても、別の方法で読書意欲の向上を図る取り組みを実施する体制を整えるよう努める。 多くの児童生徒や市民に参加してもらえるよう定員や回数を増やしたり、広報について、伝わりやすく工夫する。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告	
意見内容	オーサービジットは子どもたちも楽しんでいる。学社連携で、南丹市の温かい事業である。大人の読書会、子ども向けの工作会など力を入れられており、コロナ禍において実績が下がったというものの事業内容は十分に評価できる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	6	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築
点検・評価対象とする事務事業		(1) いじめ防止対策推進事業	担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 人権が尊重されるまちづくりの推進	
事業目的	「南丹市いじめ問題対策連絡協議会等条例」に基づき設置した「南丹市いじめ防止等対策委員会」の指導助言等を踏まえいじめの未然防止等についての学校、家庭、地域社会のそれぞれの役割を明確にし、地域総がかりでいじめ根絶に向けた取り組みを推進する。		
事業内容	令和元年度については、南丹市いじめ防止等対策委員会」を年間2回開催し、いじめ調査結果やいじめ防止の取組状況を報告し、いじめ根絶に向けた助言をいただいた。 第1回会議 いじめ調査の結果概要報告、学校教育課所管の取組紹介 第2回会議 いじめ調査の結果概要報告・社会教育課所管の取組紹介		達成指標 定期的な対策委員会を開催し、外部からの評価指導を得ることで、本市の取組のさらなる充実を図り、いじめの認知件数、解消率ともに向上させる。
			令和元年度予算額 169,000円
			達成度 委員会開催ごとに市の現状を伝え、都度評価や指導を受けることができ、認知件数は減少した。
成果	南丹市では、これまで「重大事象」の発生はなかったが、あった場合の対応等について確認する会議をもつことができた。学校の取組やPTA等の地域の取組に対する委員からの助言を生かし、学校現場等にフィードバックすることで、各校のいじめの未然防止等の取組に生かすことができ、認知件数は前年比で小学校は約30ポイント、中学校は約20ポイント減少した。		令和元年度決算額 75,806円
課題	いじめ認知件数は、年々減少傾向にあるが、いじめ解消率については、前年比で小学校約9ポイント上がったが、中学校においては約11ポイント減少した。今年度も引き続き「いじめ防止等対策委員会」を開催し、各委員に本市の現状を説明することを通して、引き続きいじめ根絶にむけた助言を得ていく必要がある。		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等
意見内容	コロナ禍において不登校の主たる要因が様変わりしてきている。これから先、不登校は避けて通れない問題。とりわけ、新たな不登校が発生したり、逆に不登校の子供たちが登校するケースもある。全国的に16万人とも言われる中、不登校対策について一つの項目として建ててもいいのではないか。		
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	
総合評価	A		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	7	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 人権教育事業（人権教育講座）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 人権が尊重されるまちづくりの推進		
事業目的	人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的とし実施。			
事業内容	第1講 令和元年6月1日（土）日吉町生涯学習センター 演題「セクシャルマイノリティを生きる」 講師 中尾 勇守 さん（参加：86名）		達成指標	
	第2講 令和元年8月2日（金）南丹市国際交流会館 コスモホール 映画「手紙」上映（参加：228名）		平均入場者数が100名を超える。	
	第3講 令和2年2月1日（土）日吉町生涯学習センター 演題「これからの人権教育・啓発の課題～部落問題をどう語り、伝えるのか～」 講師 関西大学 名誉教授 石元 清英 さん（参加：83名）		令和元年度予算額	
		672,000円		
成果	市民に学習機会を提供し、身近な話題から学ぶことで人権意識の高揚を図ることができた。 主として指導者の立場の方の参加を促し、人権教育指導者としての専門性の向上を図ることができた。 （事業内容の内訳） 講師謝礼・消耗品代（チラシ用紙） 映画フィルム借上料・会場施設使用料		達成度	
			平均100名の目標は達成できたが、偏りがあるため広報や周知方法を検討する必要がある。	
			令和元年度決算額	
		432,756円		
課題	受講することにより人権意識を育み、指導者の養成・育成につなげるという点を重視している。今後においては参加者の増加を目指すだけでなく、指導者としての意識を高めるためのさらなる内容充実が必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告書
意見内容	傍観者にならない子どもを育てる。学校教育課も一緒になり、学校の先生も巻き込んで指導者育成をするべき。教員が指導者となるよう学びべき項目も取り入れて、次年度取り組むためにあえてB評価であるというなら、単年度評価でBとしてもやむを得ない。			
内部評価	B		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。	
総合評価	B		※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）	

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	8	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 家庭教育支援事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える		
事業目的	核家族化が進行する中で両親の共働きなどが増え、親子関係を築く必要が高まっている。また、地域のコミュニティが希薄になり地域の教育力の低下が課題で、育児に対する不安を持つ親が増加している。 そのような中、講座や懇談会を通じた親育ち・親学びの場とし、家庭での教育力を向上させるとともに保護者同士の連携を深める。			
事業内容	心身の健康と豊かな心を育む家庭の教育力を高めるために、小中学校（幼稚園）やPTAなどと連携を図りながら、基本的な生活習慣・学習習慣・食育などの重要性についての理解を促し、家庭における教育力の向上につながる事業を実施する。		達成指標	
			全小中学校・幼稚園での実施を目指し、育児への不安を解消し、保護者同士の交流を深め連携を図る。	
			令和元年度予算額	
		195,000円		
成果	実施校・園では、地域の特性を生かした取り組みの推進により、親育ちの大切さを学び合うとともに、学習の機会を通じて保護者同士の交流も深まった。 親子人権研修・親のための応援塾・子育て講演会・親子ふれあい活動など子供の発達段階に応じて多岐にわたるテーマで実施した。		達成度	
			保護者の交流や連携が図れた。8校（園）で17講座実施できた。（昨年度：9校（園）19講座実施）	
			令和元年度決算額	
		110,223円		
課題	回数を重ねるごとに内容が充実してきた。今後、未実施校について事業内容を周知し積極的な事業実施を促していく。その一方でより効果的な実践ができるような予算措置が必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
		令和元年度社会教育事業報告書		
意見内容	ずっと続いている事業であり、あらたに地域学校協働事業の動きもあり大変だと思う。各校・園内、また南丹市全体での保護者同士のネットワークがあってもよいと思う。 家庭教育学級では新しい事業が種々出てきている中、どれを柱にするか大変だと思う。小さな校・園では保護者の連携ができるが、学校・園同士のつながりをどう作っていくかを考えていかねばならない。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	9	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業	担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	児童・生徒が安心して学校生活が送れるよう、計画的に老朽化対策を実施し長寿命化を図ること で、安全かつ快適な教育環境の整備を進める。			
事業内容	1. 南丹市教育施設長寿命化計画(第1期実施計画)の策定をした。 2. 設計業務委託契約により園部小学校体育館大規模改修工事及び小・中学校特別教室空調設備整備工事等の設計業務や工事請負契約により八木西小学校及び八木東小学校のプール改築工事等を実施した。 〔主な業務内容〕 ・園部小学校体育館大規模改修工事設計業務 ・小・中学校特別教室等空調設備整備工事設計業務 〔主な工事内容〕 ・八木西小学校プール改築工事 ・八木東小学校プール改築工事		達成指標	学校施設等の長寿命化を進めるために教育施設長寿命化計画を策定する。 安全で快適な教育環境をつくるため、工事設計や工事を行う。
			令和元年度予算額	527,648,000円
成果	令和2年度の工事実施に向け、園部小学校体育館大規模改修工事及び小学校特別教室空調設備整備工事の設計図書を作成することができ、また、八木西小学校プール改築工事及び八木東小学校プール改築工事については、令和2年6月の完成に向け、工事を進めることができ、安全で快適な教育施設の整備を進めることができた。		達成度	教育施設長寿命化計画（10か年計画）を策定することができた。当初計画した設計業務及び工事を実施することにより、安全・安心な学校施設の整備を進めることができた。
			令和元年度決算額	313,028,111円
課題	教育施設長寿命化計画に基づき、施設整備を進めるためには、施設の状態を的確に把握し、学校や企画財政課などとの連携を図りながら施設長寿命化計画の推進体制を充実させることが必要となる。 八木西小、八木東小プール改築工事は繰り越し事業となった。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	教育施設の長寿命化であると明記してはどうか。 また繰り越しにより事業決算額が少なく表記されている旨を記載してはどうか。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	10	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(5) 社会教育施設機能集約（八木市民センター）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	耐震強度不足が判明した八木公民館への対応として、平成28年度の市総合教育会議の決定に基づき、隣接する市役所八木支所内への機能移転を計画的に行うことで生涯学習環境の整備を図る。			
事業内容	市役所八木支所への八木公民館機能移転と長寿命化を目的とした大規模改修工事等の実施		達成指標	
			八木公民館の市役所八木支所内への機能移転及び令和2年度からの供用開始	
			令和元年度予算額	
		362,078,000円		
成果	市役所八木支所内に新たな施設「南丹市八木市民センター」として次の施設を整備した。  文化ホール、出演者控室、防災ルーム、料理実習室、会議室1・2・3、第1・2研修室、和室、子育て支援ルーム、創作活動室、録音室 (文化ホールと料理実習室には新たな備品も購入)		達成度	
			令和元年度中に機能移転は完了し、令和2年4月1日から「八木市民センター」として供用を開始することができた。	
			令和元年度決算額	
		291,204,100円		
課題	条例改正を行い「八木市民センター」に名称変更を行い、社会教育法の制約を受けない「公民館類似施設」とし、更なる施設稼働率と使用料収入の増加を図るために、積極的なPRが必要であるが、新型コロナウイルス感染症に伴い、施設の安全面の確保と稼働率の向上を両立する必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	工事の竣工図面・完成写真	
意見内容	ウィズコロナの時代、市民を集めて講座を開設する方法から転換する必要がある。八木市民センターに機能集約されたことは素晴らしい。講座内容を含めた講座のあり様の転換期であろう。府内でも先駆けて取り組んでどうか。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	11	令和元年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(6) 社会体育振興事業・青少年スポーツ育成事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える		
事業目的	年齢・体力や目的に応じ、「誰もが・いつでも・どこでも・身近に・いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツの推進を図ることで、市民ひとりひとりが、健康でいきいきと元気な生活を送ると同時に、地域社会の絆の深まりを創りあげる。			
事業内容	①南丹市スポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、競技力の向上と普及活動を図る。また、総合型スポーツクラブにおいては、地域スポーツの推進を図る。 ②スポーツ少年団だより「なんすぼジュニア」の発行とスポーツ少年団の指導者や保護者、スポーツ推進委員による講習会を実施する。		達成指標	京都丹波トライアスロンでボランティアスタッフを募り「観る・支える」スポーツの支援を図る。 府民総体全競技に参加し、総合順位15位以内を目指す。 スポーツ少年団指導者の質の向上を図る
			令和元年度予算額	3,600,000円
成果	①京都丹波トライアスロンにはボランティアスタッフとして、スポーツ少年団員も含め総勢101名が参加し、トップアスリートの競技に触れることができた また、府民総体については、19種目中17種目へ代表の派遣ができた。 【成績】総合成績 14位、市町村対抗種目入賞競技 バasketボール女子（3位）バレーボール男子（5位）バレーボール女子（7位）ゲートボール男子（8位）ゲートボール女子（8位）マスターズ種目 陸上競技砲丸投げ男子（優勝）バレーボール女子（2位） 京都丹波トライアスロンでは、スポーツ協会やスポーツ少年団を通じてボランティアを募集し、市民が大会を支える側として競技や選手と触れ合うことができた。 ②「なんすぼジュニア」を発行し、南丹市で活動するスポーツ少年団の紹介をすることができた。また、スポーツ少年団、スポーツ推進委員で「幼少期におけるアクティブ・チャイルド・プログラム」について講習会を実施することができた。 ③常に施設の点検を行い、安全確保を図ることができた。		達成度	京都丹波トライアスロンボランティアスタッフとして総勢101人が参画し、トップアスリートが競う姿を体感した。府民総体では、総合成績14位をおさめた。スポーツ少年団の指導者及び保護者を対象に救命救急とアクティブ・チャイルド・プログラムの講習会を開催した。
			令和元年度決算額	3,578,000円
課題	これまでスポーツに関わりのない市民へのアプローチを工夫し、スポーツを身近に感じ関わりをもってもらえるよう取組みを推進する。 幼少期から遊びの中に運動の基礎となる動きを取り入れ、様々な経験ができる場を子どもたちに提供し、スポーツの好きな子どもを育てることが必要。 施設の老朽化による不具合や機械の故障などの事象が多くみられる。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告 南丹市スポーツ推進計画	
意見内容	関係者の努力があると思う。団体間の連携が取れてきっちりされている。 総合型スポーツの取り組みをされており、また、なんすぼだより発行など、よい取り組みをされている。取り組みの良さを書いて、ハード面の課題が残る形でまとめてはどうか。 スポーツを通したまちづくりは大切な観点だと思う。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）		



## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	12	令和元年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 講座開設事業（地域学芸員養成講座ほか）	担当課	社会教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える			
事業目的	<p>森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会が主体となって地域の歴史・文化を学び観光ボランティアとして地域学芸員を要請する講座を開設する。具体的には住民一人ひとりが学芸員を目指してフィールドワークも交えて文献や遺物はもちろん、行事、祭礼、芸能、芸術、民話などさまざまな形で今に残る有形・無形のモノ（資料）から地域の歴史を学び、地域の観光ボランティアとして活躍できる学芸員を養成する。</p> <p>そのために、市教育委員会に参画の要請があり、文化財保護担当者がスタッフとして講座開設に携わる。</p>				
事業内容	<p>令和元年度は「園部落のあゆみ」をテーマに、大学講師や歴史研究家などを招聘し、専門的な講義とフィールドワークを行う。</p> <p>予定講座数：全12回（6日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回（8/27）「園部落の誕生」「園部落主小出氏とその系譜」</li> <li>・第2回（9/18）「園部落政の展開」「歴代藩主の肖像画をめぐって」</li> <li>・第3回（10/12）「園部落旧城下町の町屋と町並み」「園部落と生身天満宮祭礼」</li> <li>・第4回（11/7）「藩主小出氏ゆかりの名所と旧跡①、②」</li> <li>・第5回（11/12）「藩主小出氏ゆかりの名所と旧跡③」「園部落と建築文化」</li> <li>・第6回（12/1）「幕末維新期の園部落」「園部落の終焉とその後」</li> </ul>		達成指標		
			<p>南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指すため、観光ボランティア（地域学芸委員）20人を養成する。令和元年度全講座受講者数20人 令和5年度（5年間）延べ100人</p>		
成果	<p>令和元年8月から地域学芸員養成講座を開講し、当初は南丹市内外から43名（全講座受講希望30名、単発受講希望者13名）の応募があり、全6回、12講座の延べ受講者は、177人であった。全講座受講者27人に修了書を交付した。養成講座でお世話になった大学教授をはじめ、歴史学者の話から、南丹市内に現存する文化遺産が全国的にも歴史的にも貴重な「宝（もの）」であることを発見することができた。</p>		令和元年度予算額		
			0円		
課題	<p>地域学芸員を5年間かけて養成した後の取り組み内容をどごが、どういう形で、どのように進めるのか、具体的に決めていく必要がある。</p>		達成度		
			<p>全講座受講者数27人（7人の増）</p>		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会は情報センターを母体としている。今後PRが広がることを期待する。</p> <p>地域学芸員養成講座がスタートしたよい取り組みだと思う。</p> <p>事業実施後も、事業の様子や報告書を市民にPRされたらよいと思う。</p>				
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</p> <p>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</p> <p>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</p> <p>D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>			
総合評価	B				

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	13	令和元年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 体験講座開設事業（博物館、郷土資料館）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域の自然の中で体を使った体験や科学を学べる環境を整える		
事業目的	「食」や「遊び」などの切り口から歴史や文化に親しむきっかけを提供することを目的に開催する。また、見聞きするだけでは体験できない喜びや達成感を他の参加者とともに感じることでできる内容とする。体験講座を通じて、現在の暮らしを振り返り、参加者自らの生活を考える契機を提供する。			
事業内容	・郷土資料館 6月23日 朴葉ご飯づくり（7人、H30：16人） 8月12日 戦争のお話し（35人、H30：41人） 11月24日 白みそづくり（6人、H30：10人） 12月22日 注連縄づくり（16人、H30：18人） 府民の森ひよし「新緑祭」関連イベント 5月3日 銭太鼓づくり（14人、H30：14人） 里山探検クイズラリー（14人:新規） 5月4日 つくって遊ぼう（30人、H30：89人） 5月5日 もちつき大会（108人、H30：74人） 紙飛行機飛ばし大会（44人、H30：43人） ※文化博物館の事業は立藩400年事業に記載		達成指標	郷土食を中心にした講座を5講座以上開催する。その内1講座以上は新規内容の講座とする。
			令和元年度予算額	142,000円
成果	従来から実施している朴葉ご飯づくりやみそづくりなどの郷土食講座、府民の森「新緑祭」の紙ヒコーキ飛ばし大会やもちつき大会など例年通りの賑わいをみせた。また、新緑祭の中で「里山探検クイズラリー」を新規事業として実施した。樹木や地域に関連したクイズを各ポイントに配置し、ゴールを目指した。新しい取組が功を奏し、参加者からは好評を博した。		達成度	体験講座を5講座以上開催できた。また、新規に1講座を実施した。
			令和元年度決算額	99,335円
課題	郷土食講座の参加者は一定の参加者があるが、新規の参加を求めるためには新しい事業展開も必要である。文化博物館では他の団体との連携事業を実施したので、郷土資料館でもその数を増やしたい。SNS等を活用した広報も実施しているが投稿回数が事業の告知のみに限られており、日常の調査活動等もこれに加え投稿回数を増加させることで関心のある人の増やすことにつなげたい。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告
意見内容	事業を実施したときの様子と事業後のアンケートなど、双方を知らせることでPR効果があがる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	14	令和元年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 重要文化財保存管理事業、重要伝統的建造物群保存地区保存修理補助事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う		
事業目的	国の重要文化財である石田家住宅について、保存と公開を目的とした施設管理を行う。美山町北重要伝統的建造物群保存地区においては、地区における建造物及び環境物件の管理、修理、修景または復元について、所有者に対し経費の一部の補助を行うことにより、地域の景観並びに環境の保全を図る。			
事業内容	石田家住宅の公開と管理については、地元住民で構成される石田家住宅保存会に運営を委託し、4月～11月と翌3月の土日祝において一般公開を行った。また、昨年度の調査により発現した防災設備の不具合箇所について修繕を実施する。（年間公開予定日 88日）		達成指標	
	美山北伝建地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、日本古来の景観が良好な形で残されている。その保全について国や府と協力しながら事業を進める。（本年度実施予定件数 13件）		石田家においては地元保存会に管理運営を委託し、土日祝に一般公開を行う。美山北伝建地区においては、修理・修景事業について景観に配慮した事業を進める。	
成果	石田家住宅公開に関して保存会に委託することにより、見学者の対応、トイレなどの設備の清掃、周辺の草刈りなど住宅およびその周辺の維持管理についても対応することができ、公開予定日数について文化財の良好な保存・活用を達成することができた。また、防災設備改修事業を行い、設備の維持管理に努めた。		令和元年度予算額	
	美山北伝建地区においては、予定していた件数において周囲の景観に調和するように工事を行い、維持・管理を行った。主屋茅葺屋根修理（3件）、主屋杉皮葺屋根修理（3）、離れ外壁修景（2）、土蔵修理（2）、石垣修理（1）、主屋外部修理（1）、神社境内修理（1）		27,693,000円	
課題	石田家住宅については、経年劣化によりその特徴である茅葺屋根について傷みが生じており、今後の雨漏り等を考慮して、京都府と葺き替え事業を進めることが必要である。		達成度	
	美山北伝建地区においては、高齢化による景観保全の担い手の不足や、屋根材料の高騰や経済状況による葺き替え補助金の見直しが地区の景観を守る上で大きな課題となってきた。建物を社員寮や店舗として活用する意見も地元からは出てきており、保存と活用を両立しながら景観を守る修理・修景について、専門家や地区の事業に精通した建築士と協議できる場づくりが必要となってきた。		石田家住宅の令和元年度の公開日は88日（来館者数：835人）であった。伝建地区内では13件の修理・修景事業を文化庁・京都府と調整し進めることができた。	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告	
意見内容	内部評価どおり事業の成果があがり、今後も事業を検証しながら進められたい。総合的に評価できる。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	15	令和元年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出		
点検・評価対象とする事務事業		(4) 食育推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 さまざまな学習機会を創出する			
事業目的	地域で活躍する人、地域の食や食材、地域社会を支える仕組みなど、地域社会で受け継がれてきたことや、地域を支えてきた「人・もの・こと」を広め、発展・継続していくような様々な学習機会を創出する。				
事業内容	1. 食に関する指導の充実 地域・家庭・学校・給食調理場が連携し、食育を通じて正しい食の在り方を指導する。 2. 郷土愛、感謝の心の育成 給食食材の地産地消に努め、行事食を給食に取り入れるなど、食に関する感謝の心を育成する。 南丹市給食指導年間計画に基づき、毎月のテーマ給食、お誕生会献立、食育の日、日本の味めぐり等の献立を年間172回実施			達成指標	
				南丹市給食指導年間計画に基づき、年間184回の給食を実施する。	
成果	一汁二菜の給食、行事食等を通して、食育を進めることができた。 給食献立を通して、各校の実情実態に応じた食育の取り組みができた。			令和元年度予算額	
				321,200,000円	
課題	地元の農業従事者が減少していく中であるが、地産地消を基本とした給食の実施を継続的に進めていきたい。			達成度	
				実施回数172回 当初の給食回数184回は下回ったが概ね達成することができた。	
			令和元年度決算額		
			302,591,217円		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	食育は子どもたちへの一番の売りの部分だと思うので、更なる工夫を凝らし、「南丹市の給食はおいしい」というPRをできないか。南丹市が発信する情報は謙虚であり、せっかく良いことをしているのに目立たない。 市をPRするのに、食育は典型的なものだと思う。地域ならではのものをもっとPRして意気込みを見せること。伊根町の小・中学校の給食はおいしいと聞いたことがある。そのような噂は流れると思う。  地域愛として食育は重要。朴葉ご飯の様に地域の「おふくろの味」伝統食は、地域のおばあちゃん、お母さん名人を講師に招くことで広がりが出る。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	16	令和元年度重点実践項目	4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 園部藩立藩400年事業 (南丹テレビ歴史講座・子ども体験講座等)		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 文化芸術の魅力・情報発信を充実させる		
事業目的	郷土の歴史について興味と理解を深めてもらう事業の1つとして、南丹市情報センターと連携し、シリーズで立藩400年目を迎える園部藩について伝えるテレビ放送を行う。			
事業内容	放送は、毎月1回、テーマを分けて特集コーナーにて紹介した。 (毎月最終土曜日～火曜日、放送時間約8分) ・6月「プロローグ」 ・7月「園部藩小出氏のルーツ」 ・8月「江戸時代の暮らし（展示会の紹介）」 ・9月「南丹市の文化財」 ・10月「園部藩の歴史と文化（展示会の紹介）」 ・11月「園部藩と城下町」 ・1月「園部城の誕生」 ・2月「エピローグ」		達成指標	
			テーマ設定および文化財の説明等の準備を行い、年間通じて放送を行う。	
成果	7月のテーマ「園部藩小出氏のルーツ」では、関連する京都府外の文化財等も取材を行い、博物館の展示会との連携や9、11、1月では大学等の講師からの解説を盛り込むなど、園部藩をテーマに広く取材を行い、全8回の放送を行うことができた。		令和元年度予算額	
			0円	
課題	森の京都「なんたん」エコミュージアムに関連する内容であったため、充実した内容が取り組めたが、現行の情報センターの取材・編集能力では放送回数に限界があるため同程度の放送が今後も継続して行えるか、課題が残る。		達成度	
			全8回放送を行った。	
		令和元年度決算額		0円
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育事業報告	
意見内容	研究された成果がうまく博物館や学芸員に連携できたらいいと思う。地元の歴史家は専門的だがローカルでないとできない研究をされているし、研究成果を地域に広げる活動をつないでいく活動が必要。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	17	令和元年度重点実践項目	4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 展示会事業 (江戸時代の暮らし展、園部藩のあゆみ展)		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 文化芸術を楽しめる環境構築に努める		
事業目的	南丹市にまつわる歴史的・文化的な資料を中心に紹介する展示会を開催することにより、市民の学習意欲を刺激し、生涯にわたっての学習の機会を提供する。			
事業内容	夏季展は「江戸時代の暮らし」秋季展は「園部藩の歴史と文化」を開催した。特に夏季展は、歴史が苦手な人にも歴史を理解していただけるよう、イラストや平易な文章を用いて江戸時代をわかりやすく解説した。秋季展は、園部藩の成立から終焉までをさまざまな資料で紹介した。それぞれの会期中、体験講座や野外見学会、ギャラリートークなどを実施した。		達成指標	
			園部藩立藩400年を記念し、二つの連続する展示会や関連団体と連携した体験講座を開催する。特に、歴史に関心が薄い人へのアプローチするため幅広い事業を展開する。	
			令和元年度予算額	
				14,611,000円
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季企画展「江戸時代の暮らし」 期間：令和元年7月27日～9月16日 開館日数：45日 展示点数：約120点 入館者数：472人 関連事業：7/30 知って得するお寺の暮らし（53人）、8/11ダンボール甲冑づくり（24人）8/18 江戸時代の昔話、からくり人形作り（6人）</li> <li>・園部藩立藩400年記念特別展「園部藩の歴史と文化」 期間：令和元年10月19日～12月8日 開館日数：44日 展示点数：170点 入館者数：723人 関連事業：体験事業11/10展示解説会（12人）、11/16野外見学会（15名） 製作物：展示会図録、城下町復元模型、藩主像修理、御城印等</li> </ul>		達成度	
			夏季・秋季展と関連テーマで連続展示会を開催できた。新規事業としては、徳雲寺を会場に体験講座を実施、団体との連携も進めた。また、なんたん森のエコミュージアム実行委員会と各種講座やテレビ番組製作など協力して事業を展開し、幅広い層の参加者を集めることができた。	
			令和元年度決算額	
				13,345,188円
課題	本事業は園部藩立藩400年を記念して実施したものであるが、地元南丹市からの来館が少なかった点に課題が残った。今後は、事業を一過性のものにせず、南丹市民が一体感のもてる内容を展開していく必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
		令和元年度社会教育事業報告		
意見内容	南丹市の歴史資産を、小中学生の地域学習の取り組みに活用できるとよい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	18	令和元年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 外国語教育推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 外国語教育や多様な文化の学習を充実させる		
事業目的	外国語教育では、外国語の習得だけでなくコミュニケーションを図る能力を高めながら、国内外文化的多様性や相互理解の充実を図る。			
事業内容	ALTの配置 総時間 1,085時間 英検受験(補助対象)人数 115名 小学校教員英語研修(各校任意の自主公開授業研究会を実施) 中学校英語科教員研修(年2回実施)		達成指標	
			英検受験(補助対象)者を昨年度より増やす	
			令和元年度予算額 3,422,000円	
成果	新学習指導要領の全面実施に向けて、外国語教育の指導の充実を継続的に行うことができた。 英語検定料の一部補助を実施する事で、生徒の英語力や学習意欲の向上させることができた。		達成度	
			昨年度 99名 本年度115名	
			令和元年度決算額 2,853,940円	
課題	令和2年度から、小学校においては新学習指導要領の本格実施となる。中学校の英語力の高度化につなげる取り組みを継続的に行っていく。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	重要な取り組みなので、良いと思う。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A (計画どおり又は計画以上の成果が得られた) B (課題は残しながらも概ね目標は達成できた) C (課題を残し、目標も充分達成できなかった) D (検討段階に止まり具体の成果はなかった)		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	19	令和元年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業		(2) 適応指導教室の開設		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 ユニバーサルデザイン環境の構築に努める			
事業目的	個別の教育的ニーズに対応できる教育機会の確保や、個別指導・支援環境の整備に努める				
事業内容	様々な理由で登校できない状態又はその傾向にある児童生徒の居場所をつくり、相談、適応指導を通して集団生活への適応、社会的自立をめざして本年度から南丹市適応指導教室「さくら」を開設した。 通室児童生徒 小学生 4名 中学生 3名			達成指標 本年度開所した「さくら」を市民・学校等に広く周知し、この場所を必要とする児童生徒に利用し、試行時の助教を踏まえ2～3名の通室を目指す。	
				令和元年度予算額	
				6,303,000円	
成果	年度当初から通室生徒があり、学校とも連携しながら個々に応じた支援ができた。年度の後半からは、児童生徒の状況に応じた支援を行うため「アウトリーチ」も実施した。通室生は7名と予想を上回るニーズがあることがわかった。			達成度 通室生は7名と、当初の予想を上回る結果となった。後半からはアウトリーチ事業に取り組みめた。	
				令和元年度決算額	
				5,372,189円	
課題	通室生の人数の状況からみて、適応指導教室の認知度やニーズが高まったことは成果であったが、児童生徒一人ひとりの特性に適した支援の内容をさらに充実させるために、通室生のアセスメントを適切に行う必要がある。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	重要な取り組みなので、良いと思う。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			



## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	20	令和元年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 心のバリアフリー推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 バリアフリー意識の啓発・浸透に努める		
事業目的	全ての幼児、児童生徒が共に学び合い育ち合う共生社会の実現を目指した教育を特別支援教育の重点目標として掲げ、障害のある子とない子どもとの交流及び共同学習等を通して障害者理解の一層の推進を図る。			
事業内容	昨年度に引き続き、国の委託事業を活用し、交流及び共同学習を継続的、効果的に実施するため、南丹市八木町をモデル地域とし実践研究を進めてきた。 ア. 心のバリアフリー事業研究推進委員会の設置 イ. 交流及び共同学習の充実 ウ. 育ち合う子らの集いの充実 エ. 心のバリアフリー交流会の開催		達成指標	
			心のバリアフリー交流会を通じて「聞こえない」ことへの理解が参加者の半数を超える。	
			令和元年度予算額 1,815,000円	
成果	交流及び共同学習において、モデル地域を中心とした事前・事後学習の設定、充実や評価の在り方など、先進地の事例を参考にしながら、交流及び共同学習南丹市モデルを作成し、年度末に開催した成果報告会等により他地域に波及させることができた。 八木中学校ブロック各校と府立丹波支援学校の児童生徒を対象に、令和元年度は、「手話エンターテイメント発信団OIOI」を講師として招き、「心のバリアフリー交流会」を開催した		達成度	
			「聞こえない人」へのイメージが変わったという割合 86.1% <small>未満</small>	
			令和元年度決算額 1,280,129円	
課題	本年度をもって国の委託事業は終了するが、次年度以降は、2年間取り組んだ成果を南丹市全域、各中学校ブロックに波及させる形で取り組みを継続していきたい。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	よい取り組みができていると思う。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	21	令和元年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 校種間連携推進事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 異年齢で学びや交流の場を広げる		
事業目的	中学校ブロックを単位とした校種間連携体制の下で進める研究・研修活動を通して、子どもの発達理解・教育内容を深め、授業力・保育力の向上を図る。			
事業内容	各中学校ブロック単位で研究テーマを決め、取り組む 1. 園部中学校ブロック「子どもの主体的な力を伸ばし、学力を高めよう」 2. 八木中学校ブロック「学びの集団作りと質の高い学力の育成」 3. 殿田中学校ブロック「豊かなコミュニケーションを有する人材の育成」 4. 美山中学校ブロック「美山っこの主体性と言語力を育て、思考力・判断力・表現力の向上を図る」		達成指標	
			年間3回の研究会を開催する。	
成果	保・幼・小・中連携事業においては、中学校ブロックを単位として、全小学校・中学校・幼稚園及び保育所による校種を越えた交流・研究事業が展開できたことにより、就学前から義務教育9年間を見通した連携と研究が深まり、子どもの理解と学力向上に繋がってきている。		令和元年度予算額	
			212,000円	
課題	「スタートプログラム」小学校が作成する「スタートプログラム」と就学前教育からの「アプローチプログラム」をさらに見直し、段差のない接続を図っていききたい。 また、校種を超えた教職員の連携を一層充実させたい。		達成度	
			各ブロックとも年間3回の実践研究会を実施できた。	
		令和元年度決算額		212,000円
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	この事業により小学校・中学校の接続の難しさを実感した。 お互いに学べることが多くあり、一層の取り組みが必要である。 例えば、小5～中1を小・中学校の先生が両方で見守る制度を作って、南丹市が先駆的に取り組めばいい。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	22	令和元年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成					
点検・評価対象とする事務事業		(2) 子どものための地域連携事業		担当課 社会教育課				
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域における子どもの居場所を充実させる						
事業目的	学校や家庭ではない、地域における子供の居場所を作り、地域社会が子どもと関われる場、子どもが地域社会にかかわれる場を充実させます。							
事業内容	平日の放課後や学校休業日を活用し、地域が中心となって子どもの居場所づくり、地域交流を行う。【放課後子供教室推進事業】		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center;">達成指標</th> </tr> <tr> <td>放課後児童クラブと連携した全小学校区での実施。</td> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">令和元年度予算額</th> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">5,025,000円</td> </tr> </table>		達成指標	放課後児童クラブと連携した全小学校区での実施。	令和元年度予算額	5,025,000円
達成指標								
放課後児童クラブと連携した全小学校区での実施。								
令和元年度予算額								
5,025,000円								
成果	摩気高山教室（算数、漢字、理科、英語学習、国際交流等）、神吉教室（太鼓活動）、宮島教室（夏祭り、おもちゃ作り）知井（ちまき作り、世代間交流、朝学習等）平屋教室（案山子作り、七夕飾り作り等）大野（太鼓活動）が実施できた。（昨年度：3地区6教室で実施）		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="text-align: center;">達成度</th> </tr> <tr> <td>【放課後】園部地区1ヶ所（摩気高山教室）八木地区1ヶ所（神吉教室）美山地区4ヶ所（宮島・知井・平屋・大野）で実施できた。園部地区では児童クラブと連携した取り組みができた。</td> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">令和元年度決算額</th> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">4,675,262円</td> </tr> </table>		達成度	【放課後】園部地区1ヶ所（摩気高山教室）八木地区1ヶ所（神吉教室）美山地区4ヶ所（宮島・知井・平屋・大野）で実施できた。園部地区では児童クラブと連携した取り組みができた。	令和元年度決算額	4,675,262円
達成度								
【放課後】園部地区1ヶ所（摩気高山教室）八木地区1ヶ所（神吉教室）美山地区4ヶ所（宮島・知井・平屋・大野）で実施できた。園部地区では児童クラブと連携した取り組みができた。								
令和元年度決算額								
4,675,262円								
課題	実施箇所数としては昨年度と変わらなかった。多様な活動を支える地域人材の発掘も必要だが、子供教室に関わる地域人材が、高齢化しており活動がマンネリ化傾向にある。							
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育課事業報告				
意見内容	内部評価どおり事業の成果があがり、今後も更に事業が広がり、充実されることを期待する。総合的に評価できる。							
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり						
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）						

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	23	令和元年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 子どものための地域連携事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 子どもが地域で活躍できる場を創出する		
事業目的	子どもが地域社会の一員として、役割を担い活躍・貢献することで、自己肯定感や自己有用感を実感できる機械や場を創出します。			
事業内容	『目指す子ども像』を共有し、その目的を達成するために多様な活動を実施する。豊富な技術や知識を持つ地域人材の活用により、学校の教育活動を支援する。植栽整備、図書整理、クラブ活動支援、学習支援等行う。【地域学校協働活動推進事業】		達成指標	
			全校実施と、学習支援（未来塾）の全中学校の実施。	
			令和元年度予算額	
		5,025,000円		
成果	京都府第1号として美山小学校に地域学校協働活動推進員が配置できたことをきっかけに、年度内には小中学校11校に地域学校協働活動推進員を配置することができた。 また、学校運営協議会で共有できた『目指す子ども像』実現のため、学校と地域学校協働活動推進員と連携し、地域資源・地域人材を活用した取り組みが進められた。 今までから取り組んでいる花植え、図書整理等、クラブ活動支援、ミシン指導、見守り活動、学習支援（地域未来塾）等の活動についても活動内容が増え実施できた。		達成度	
			小中学校11校で推進員の配置及び活動実施できた。 学習支援（未来塾）では4中学校で実施できた。	
			令和元年度決算額	
		4,675,262円		
課題	地域学校協働活動推進員が配置できたことで、学校教職員と連携していく必要があるため、学校内での地域学校協働活動推進員の存在と活用について認識を深めていく必要がある。 学校教職員と連携する中で、今までと同じものばかりでなく一歩進んだ活動を展開する必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和元年度社会教育課事業報告	
意見内容	地域学校協働活動推進員が市内小中学校11校に配置されたことは評価できる。 今後、地域と学校を結ぶパイプ役として、更に充実した活動を展開されることを期待する。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

## 令和2年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和元年度対象）

項目番号	24	令和元年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(4) コミュニティ・スクール推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域人材が学校で活躍できる場を創出する			
事業目的	コミュニティ・スクールを核とする学校・家庭・地域の連携、共同体制を確立し持続可能な推進体制を図る				
事業内容	コミュニティ・スクールの理解者・推進者を増やすため、外部研修への参加、外部講師を招いての研修会や交流会を行った。			達成指標	
				学校運営協議会の委員の中に地域学校共同活動推進員を入れて活動する	
				令和元年度予算額	
成果	地域・家庭・学校が運営協議会等で熟議を重ね、目指す子ども像の共有が進んだ。すべての小学校に地域学校共同活動推進員を配置したことも相まって各校における協働の取り組みが進んだ。			達成度	
				小学校すべての学校において地域学校共同活動推進員を任命することができ、学校運営協議会委員となった。	
				令和元年度決算額	
		712,000円			
		681,825円			
課題	小学校だけでなく中学校にも学校運営協議会を設置していきたい。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>11校に地域学校協働活動推進員が1名ずつ入っているのが、思い切った施策である。京都府内ですべての学校に入れられているところは珍しい。地元へ戻ってくる子どもを育てる思い、郷土愛を育てることが大切。学校が直接的に取り組むことができない分野であり、現実には何が求められているのか、しっかり把握して立ち向かっていただけるコミュニティ・スクールであってほしい。その視点を持っていただきたい。</p> <p>子どもが自分の故郷の思い出として持ち続けられるような想いを、学校教育の中でも培っていただきたい。</p>				
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A		A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		